

マーガレット

学名：アルギランテマム
(Argyranthemum frutescens)
科 目：キク科の多年草(宿根草)
自生地：カナリア諸島

マーガレットはキク科の多年草(宿根草)で、早春には欠かせない草花のひとつです。最近、品種改良が進み白い花以外に黄色、ピンク、赤、などいろいろな花色があり、また花の咲き方にも八重咲き、丁字咲きなど、多種多彩になってきました。

とても丈夫な植物で、初めての方にも手軽に楽しんでもらえるお花です。店頭で並ぶのは、12月から5月と販売期間が長いのも特徴です。

〈注 意〉

店頭では12月から販売しており、比較的“寒さ”には強い植物ですが、真冬の戸外ではマーガレットも寒がります。日中、気温が5℃くらいあれば平気ですが、夜間だけはお部屋の中に入れてあげてください。お部屋の中に入れられない場合は直接、霜のあたらない軒下などに置いてあげれば、大丈夫です。寒い時期は、植物自体もそれほど活発に成長はしないので、水も肥料も控えめに！

また、明るい部屋や出窓など、暖房をする部屋で観賞する場合は、乾燥しやすいので水の管理はこまめにしてください。

春、暖かくなったら(霜が降りなくなったら)一日中戸外で大丈夫です。4月頃からは、植物もとても元気にすくすく育つので、肥料(市販の化成肥料 例/N:P:K=10:15:10)も水も少しずつ増やしていきましょう。購入したままの鉢だと、根づまりをしている可能性もあるので、ひとまわり大きい鉢に植え替えるか、地植えにすると良いでしょう。それから、色あせて終わった花をいつまでも、そのままにしておくと植物自体の体力を奪ってしまうので、こまめに取り除いてください。(ハサミでカット)

日本の暑い夏は、マーガレットも好きではありません。夏の暑い間は花も一休みしますので、思いきって刈り込むか、もっと思いきって夏に強い花に買い換えましょう。地植えにした場合は、梅雨前に刈り込んでおいたほうが、良いでしょう。

秋、涼しくなった頃から再び花を咲かせる品種もありますが、あまり大株になってしまい困るようでしたら、秋、寒くなる前にもう一度、思い切って刈り込んでください。目安としては地上部より20~30cmくらいです。夏を越し秋を越したマーガレットは、非常に強くなっています。冬になっても、暖かい地方でしたら、そのまま戸外でも十分耐えられます。

もし、寒さで地上部が枯れてしまっても、地中の中で宿根するはずなので、春になれば再び新芽が出てきて花を咲かせてくれます。